

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (静岡と世界を繋ぐマイプロジェクトコース)		訪問国	アメリカ合衆国	
学校名	清水南高校	氏名	河原崎 朱	学年	高校2年

1. 実施内容

- ・ 成果：12月に自作ショーを完遂。企画・制作・実施までを個人で行った。個人の表現技術の向上を確認できた。
- ・ 身につけたこと 自己の表現力の向上、目の前の観客へ、どのように表現するかには成功した。

2. 同期のトビタテ生と「静岡への貢献」の不足度

- ・ 静岡の土地柄、歴史、特産品、あるいは「静岡ならではの空間」を演出に組み込めていなかった。
- ・ 自分の稽古からトビタテに参加したいと思って相談してくれる学生の数が極端に少なかった。また、自分も積極的に声掛けをすることができなかった。
- ・ ショーを通じて、知らない人にミュージカルを知ってもらおうという目標を達成できなかった。身内やミュージカルのことを好きな人しか見に来てくれなかった。

3. 具体的な反省点

- ・ 内向きな視点：「自分が何を表現したいか」に集中し、「この街でやるからこそその意味」に焦点を置くことができなかった。
- ・ トビタテで海外に行き自己理解に取り組めたからこそ今の自分がいるということを示すことができなかった。

4. 学んだこと

- ・ 完成度の高さは自分が持っている実力ではなく稽古への取り組む姿勢で大きく変わることが分かった。
- ・ 小さい子たちから出てくる無限のやる気や自分にとっての利益を考えずに取り組む姿は自分も見習うべきだなと改めて気づかされた。



次回の再演静岡まつりに向かって取り組みたいこと。

1. 「静岡まつり」ならではの演出：

自分が作ったショーに静岡を連想させるような演技をプラスし、静岡祭りにぴったりで貢献できるような演目を作りたい。

2. アクセスの良さ（映画感覚）：

お祭りに来ている人たちが、ふらっと足を止めて観てくれるようにお客さんを巻き込める温かいステージづくりを稽古の時からもっと積極的に行いたい。例えば、参加者の学生とのコミュニケーションの機会をもっと増やしたい。

3. 12月との決定的な違い：

12月の時は、歌のレベルに大きな差があり、そこが後で見返していても残念だったので個人の得意をどう伸ばし、本番で見せるか。全体像ではなく個人に焦点を当てて稽古に取り組んでいきたい。

4. 地元の反応への期待：

静岡の人たちに、自分のショーを通じて、ミュージカルってなんだろう。ミュージカルって面白そうというミュージカルに関してプラスの感情を抱いてもらいたい。また、トビタテで得た実行力、計画力、人を動かす力を示したい。

5. 参加者との団結力

12月の時は、ショーをいかに成功させるかという結果にこだわってしまったので、参加者のみんなとプライベートな交流をする時間が取れず、教師と生徒のような関係になってしまった。このような関係ではなく、お互いを高め合えるメンバーの1人として取り組んでいきたい。また、その中で自分の将来につながるような発見もしていきたい。

ショーまでの本番までの関わりだけでなく、終わった後も参加者と交流し、個人の悩みや留学についての相談にも気軽に相談できるような関係性を作っていきたい。

